

# 研修の特徴 外科

墨東病院で研修可能なサブスペシャリティ領域

## 消化器外科 (新専門医制度)

プログラム責任者：外科 高橋 道郎  
プログラム期間：3年

外科専門医を既修得の方が、サブスペシャリティとして消化器外科専門医を取得するための研修プログラムです。がん診療を主に研修するコースですが、救急や良性疾患を含めた消化器外科領域の全域を幅広く研修できるコースです。

専門研修期間は3年で、基本的に6か月ごとの単位で上部、下部、肝胆膵をローテーションし、消化器外科専門医取得に必要な手術症例を経験します。研修状況や希望に応じてアレンジも可能です。

近年、がん手術の多くは鏡視下に行われていますが、鏡視下手術練習のための共用のドライボックスが複数あるトレーニングルームで、随時使用が可能です。手術支援ロボットダヴィンチが導入され、外科では胃癌、結腸直腸癌、肝癌、膵癌等に施行されています。

## 呼吸器外科 (新専門医制度)

プログラム責任者：呼吸器外科 江花 弘基  
プログラム期間：2年

呼吸器外科専門医ならびに、関連学会専門医の取得に必要な知識の習得、術者・助手の手術経験、学術活動を目指としています。墨東病院呼吸器外科における豊富な手術症例（年間250例以上。肺癌だけでなく、気胸などの嚢胞性肺疾患、肺感染症に対する手術、外傷など）を用い、専門医取得の修練を行います。

術式に関しては、基本となる開胸手術のほかに、胸腔鏡下手術およびロボット支援胸腔鏡下手術の修練を行う。学術活動に関しては、国内外の基本となる学会への参加ならびに発表、論文作成などを行います。

修練機関は2年間とし、墨東病院で1年、連携施設で半年から1年の呼吸器外科研修を予定しています。並行して学位(医学)取得も視野に入れ、大学との連携(大学院入学、共同研究など)を行っていく予定です。

## 心臓血管外科 (新専門医制度)

プログラム責任者：心臓血管外科 白石 学  
プログラム期間：3年

心臓血管外科専門医取得に必要な知識の習得、術者・助手の手術経験、学術活動を目指とします。

- ①基本的な疾患の診断と病態評価を行い、治療の適応・方針について正確な判断力を身に付ける。
- ②基本的手技(大腿動脈の露出等)に習熟し、高度な手技(やや複雑な弁膜症や腹部・胸部大動脈瘤等、心停止下冠動脈バイパス等の助手、単弁置換術等比較的単純な開心術の術者、技量に応じ急性大動脈解離手術等などの術者)を段階的に習得する。
- ③救命救急センターとの連携により、心臓大血管緊急症例への治療プロセスを身に付ける。
- ④上級医指導のもと、地方会・全国学術総会等での発表を年1回以上行い、論文作にも積極的に取り組む。
- ⑤接遇および多職種とのコミュニケーションの重要性を理解・実践し、複雑な病態を呈する患者への適切なICを行い、対応力を身に付ける。

# 研修の特徴 外科

## 墨東病院で研修可能なサブスペシャリティ領域

### 乳腺外科 (新専門医制度)

プログラム責任者：乳腺外科 下園 麻衣  
プログラム期間：3～5年

乳腺外科専門医とは乳癌の診断と手術を含めた治療を専門とし、資格認定試験を経て認定されるサブスペシャリティです。

墨東病院は基幹病院としてそのほとんどを有しているため、院内で豊富な症例を短期間で経験でき、速やかに外科専門医を取得し、乳腺外科専門医研修に移行することが可能です。日本乳癌学会に入会以降は、外科専門医研修での実績をサブスペシャリティ領域として乳腺外科専門医研修カリキュラムへ組み入れることができ、外科専門医プログラムと連動研修を行うことが可能です。また、サブスペシャリティ領域の基幹病院となる駒込病院と連携し、幅広い経験を積みながら乳腺外科専門医カリキュラムを3～5年で行います。

なお、すでに外科専門医を取得している方は、3年間で乳腺外科専門医の取得を目指します。

## 多摩総合医療センターで研修可能なサブスペシャリティ領域

### 消化器外科 (新専門医制度)

プログラム責任者：消化器・一般外科 石橋 雄次  
プログラム期間：2年

消化器外科専門医は、基本領域である外科専門医に直結する6つのサブスペシャリティ領域の一つで、消化器外科領域の診断、手術、周術期管理などにおいて標準的外科診療を担える医師と定義されています。

専門医取得の要件としては、外科専門医修練開始から300例の手術件数と中・高難度手術の術者20例となっています。当院では年間1,000例以上の消化器外科関連手術を施行し、消化器外科学会指導医8名、専門医12名(※指導医との重複含む)の指導体制をとっており、十分な研修を受けることができます。研修は上部消化管、下部消化管、肝胆膵の3つの診療班をローテーションする形で行われます。

### 呼吸器外科 (新専門医制度)

プログラム責任者：呼吸器外科 吉川 拓磨  
プログラム期間：2～5年

外科専門医からつながるサブスペシャリティ領域の一つである呼吸器外科専門医を目指します。専門医取得のためには術者60例および助手120例の経験が必要で、当院では約2年で必要症例を経験でき、最短卒後7年で取得可能です。同時に必要な業績(学会発表、論文発表)や研修業績(学会、セミナー参加)も指導します。

研修終了後は希望により、当科所属となり、呼吸器外科学会評議員資格、気管支鏡専門医、呼吸器専門医、外科指導医など多様な専門医取得も可能です。内視鏡手術も積極的に行っており、胸腔鏡技術認定医やda Vinci Console Surgeonも取得可能です。

また、希望により大学病院との連携により、学位取得や呼吸器外科修練を行うことができます。

# 研修の特徴 外科

多摩総合医療センターで研修可能なサブスペシャリティ領域

## 心臓血管外科 (新専門医制度)

プログラム責任者：心臓血管外科 久木 基至  
プログラム期間：3(～5)年(非連動研修者)  
2(～5)年(連動研修1年修了後)  
1(～5)年(連動研修2年修了後)

本コースは多摩地区を中心とした東京都内の6施設で構成された杏林大学心臓血管外科を中心とした「多摩武蔵野あんずグループ」に所属し、グループ全体で修練医22名、心臓血管外科専門医41名で構成される修練施設群を形成しています。科の特性上、1施設で心臓血管外科全分野を経験することが難しいことから、グループ内の連携施設全体での研修プログラムを受けることにより、規定期間内に専門医試験資格および必要な経験を習得します。

単独型は卒後6年目より3年間の研修ののち、最短で卒後9年目に心臓血管外科専門医試験に対する受験資格を得ることができます。また、基本領域である外科からの連動研修も認められています。心臓血管外科修練期間は3年以上9年以下であり、修練終了後5年以内に専門医資格を取得することが規程されています。

駒込病院で研修可能なサブスペシャリティ領域

## 消化器外科 (新専門医制度)

プログラム責任者：肝胆膵外科 脊山 泰治  
プログラム期間：3年

【理念】消化器外科領域診療に関わる最新の知識・診療技術を習得し、実践できる能力を養いつつ、この領域の学問的発展によって社会に貢献すること。

【目標】日本消化器外科学会専門医取得

【当院の環境】消化器外科4領域(食道外科、胃外科、大腸外科、肝胆膵外科)が、がん診療として最先端の医療を提供しており、指導医数も充実しているため、外科専攻医からの研修先として評価が高い。

【研修内容】食道外科、胃外科、大腸外科、肝胆膵外科を2年間ローテイトしながら、各領域の専門的な手術を経験します。開腹手術に加え、高難度腹腔鏡手術やロボット手術のトレーニングなど最先端の消化器外科手術を習得します。

【学術活度】学会発表、論文執筆の指導も積極的に行い、消化器外科専門医申請に必要な条件をクリアします。

## 乳腺外科 (新専門医制度)

プログラム責任者：外科(乳腺) 桑山 隆志  
プログラム期間：3年

乳腺領域の診療に必要な画像診断から手術・薬物療法・緩和ケアまで網羅的に研修することが可能です。

当科は新臨床専門医制度における乳腺外科専門医カリキュラムの基幹施設であり、診断は日本乳がん検診精度管理中央機構の読影認定医が指導し、生検も指導しています。

乳癌手術症例数は年間約500例で、5名の乳腺専門医が診療・教育指導を担当しています。薬物療法は化学療法・ホルモン療法・分子標的治療など全般的に行っており、数多くの治験・臨床試験の参加実績を有しています。

遺伝診療は、カウンセリング、遺伝学的検査、サーベイランス、リスク低減手術など全般の診療と教育を診療科内の複数の遺伝性腫瘍専門医が担当しています。形成外科・病理科・緩和ケア科などへのローテートも可能で、乳腺外科専門医取得に必要な教育を行っています。また学会発表や論文作成などの学術活動への参加を積極的に指導しています。